

平成 2 2 年度

千葉市公営企業会計決算審査意見書

千葉市病院事業会計

千葉市下水道事業会計

千葉市水道事業会計

千 葉 市 監 査 委 員

千葉市長 熊 谷 俊 人 様

千葉市監査委員	宮 下 公 夫
同	大 島 有紀子
同	山 浦 衛
同	橋 本 登

平成 22 年度千葉市公営企業会計決算の審査意見について

地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定により審査に付された平成 22 年度千葉市公営企業会計（病院事業会計・下水道事業会計・水道事業会計）決算並びに証書類、事業報告書及び政令で定めるその他の書類について審査したので、次のとおり意見を提出します。

目 次

平成22年度千葉市公営企業会計審査意見

第1	審 査 の 対 象	1
第2	審 査 の 期 間	1
第3	審 査 の 方 法	1
第4	審 査 の 結 果	1

病 院 事 業 会 計

1	業 務 実 績	3
2	予算執行状況	5
3	経 営 成 績	9
4	財 政 状 態	12
5	経 営 指 標	16
6	む す び	18

下 水 道 事 業 会 計

1	業 務 実 績	19
2	予算執行状況	21
3	経 営 成 績	23
4	財 政 状 態	25
5	経 営 指 標	27
6	む す び	29

水 道 事 業 会 計

1	業 務 実 績	31
2	予算執行状況	33
3	経 営 成 績	35
4	財 政 状 態	36

5	経 営 指 標	38
6	む す び	40

決 算 審 査 資 料

1	病院事業会計	41
2	下水道事業会計	59
3	水道事業会計	67
	(参考) 経営分析表の項目説明	74

表記に関する注意事項

- 文中及び表中の金額は、原則として消費税及び地方消費税を控除した額を用いた。
ただし、予算と対比する決算額の数値については消費税及び地方消費税を含んでいる。
- 文中の金額は、原則として万円単位で表示し、単位未満は切り捨てた。また、表中の金額は円、千円単位又は百万円単位で表示したが、千円及び百万円単位で表示した金額については、単位未満を四捨五入した。
したがって、差額又は合計金額等が一致しない場合がある。
- 比率(%)は、小数点第2位を四捨五入した。
- 収入割合は、予算額に対する収入決算額の割合であり、執行率は、予算額に対する支出決算額の割合である。
- 文中の内訳等は、主なものを記載している。

平成 22 年度千葉市公営企業会計決算審査意見

第 1 審査の対象

平成 22 年度千葉市病院事業会計決算

平成 22 年度千葉市下水道事業会計決算

平成 22 年度千葉市水道事業会計決算

上記の決算に関する証書類、事業報告書、収益費用明細書、固定資産明細書及び企業債明細書

第 2 審査の期間

平成 23 年 6 月 1 日から同年 7 月 15 日まで

第 3 審査の方法

千葉市公営企業会計決算及び決算附属書類が法令に基づいて作成されているか、その計数が正確か、企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかを審査するとともに、主として年度比較によって事業の推移を把握した。

第 4 審査の結果

千葉市公営企業会計決算及び決算附属書類は、いずれも法令に基づいて作成されており、その計数は正確であるとともに、経営成績及び財政状態は適正に表示されているものと認められた。

なお、各公営企業会計の決算状況及び意見は、次のとおりである。

病 院 事 業 会 計

1 業 務 実 績

(1) 青葉病院

入院患者数は、9万8,407人（1日平均270人）で、前年度に比較し1,211人（1.2%）増加している。また、病床利用率は、70.9%で、前年度に比較し0.8ポイント上昇している。

外来患者数は、20万3,322人（1日平均837人）で、前年度に比較し2,992人（1.5%）増加している。

(2) 海浜病院

入院患者数は、7万6,552人（1日平均210人）で、前年度に比較し3,313人（4.1%）減少している。また、病床利用率は、69.7%で、前年度に比較し3.0ポイント低下している。

外来患者数は、15万2,344人（1日平均580人）で、前年度に比較し2,849人（1.8%）減少している。

表 1 業務実績

区 分			平成22年度	平成21年度	対前年度増減	対前年度比率 (%)
青 葉 病 院	病 床 数 (床)		380	380	0	100
	入 院	患 者 数 (人)	98,407	97,196	1,211	101.2
		1日平均患者数 (人)	270	266	4	101.5
		病 床 利 用 率 (%)	70.9	70.1	0.8	—
	外 来	患 者 数 (人)	203,322	200,330	2,992	101.5
		1日平均患者数 (人)	837	828	9	101.1
海 浜 病 院	病 床 数 (床)		301	301	0	100
	入 院	患 者 数 (人)	76,552	79,865	△3,313	95.9
		1日平均患者数 (人)	210	219	△9	95.9
		病 床 利 用 率 (%)	69.7	72.7	△3.0	—
	外 来	患 者 数 (人)	152,344	155,193	△2,849	98.2
		1日平均患者数 (人)	580	588	△ 8	98.6

(注) 1 入院及び外来患者数は、年延患者数を示す。

2 病床利用率：入院患者数／年延病床数×100

図1 病床利用率の推移

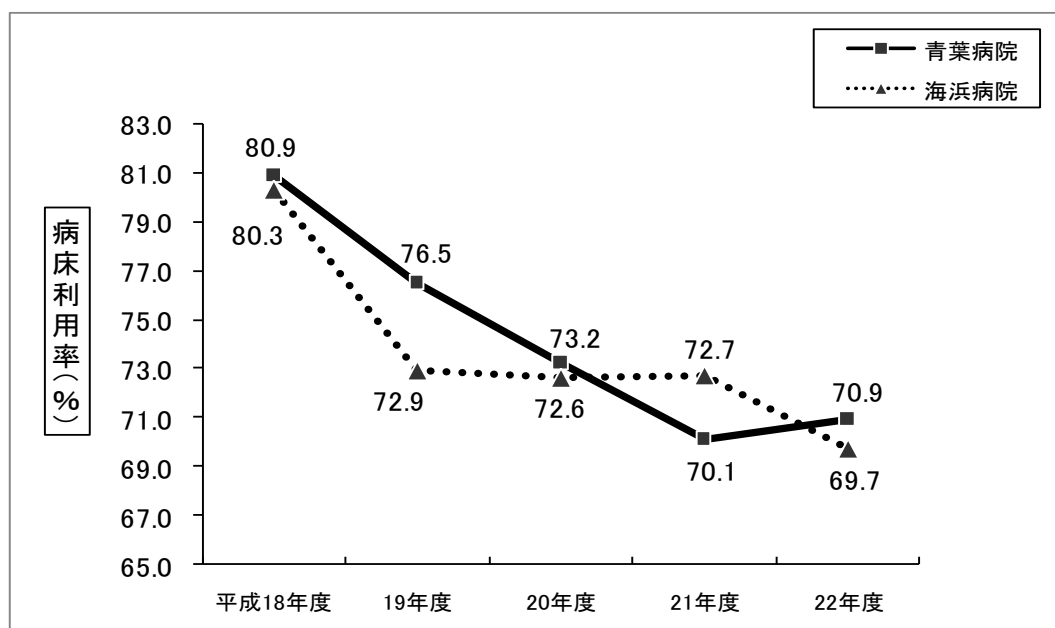
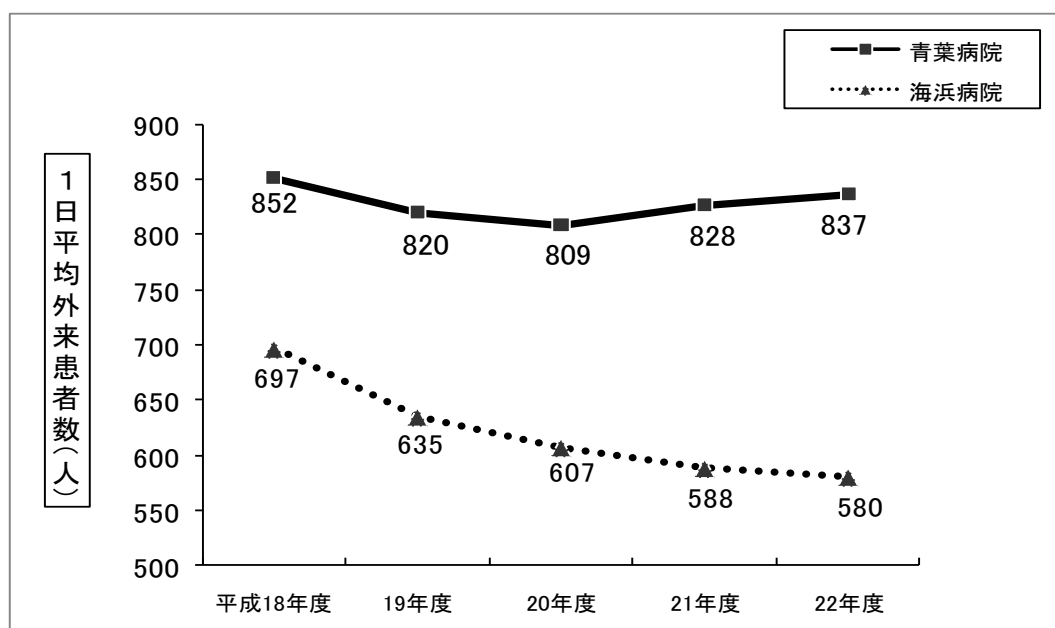


図2 1日平均外来患者数の推移



(参考) 両病院合計の入院・外来患者数の状況

(単位: 人)

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
入院患者数	200,455 (550)	186,671 (510)	181,380 (497)	177,061 (485)	174,959 (480)
外来患者数	391,274 (1,549)	367,649 (1,455)	354,900 (1,416)	355,523 (1,416)	355,666 (1,417)

(注) () 内は、1日平均患者数である。

2 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出

ア 収益的収入

(ア) 青葉病院

青葉病院事業収益は、予算額93億5,801万円に対し決算額は92億9,748万円（収入割合99.4%）で、予算額に比べ6,052万円の減額である。

予算額に比べ減額となった主なものは、医業外収益の一般会計負担金2億7,021万円である。

(イ) 海浜病院

海浜病院事業収益は、予算額75億3,411万円に対し決算額は76億982万円（収入割合101.0%）で、予算額に比べ7,570万円の増額である。

予算額に比べ増額となった主なものは、新生児科等の診療単価が上昇したことによる医業収益の入院収益1億8,360万円である。

表2 予算執行状況（収益的収入）

（単位：千円、%）

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収入割合
青 葉 病 院 事 業 収 益	9,358,012	9,297,485	△60,527	99.4
医 業 収 益	6,327,707	6,523,304	195,597	103.1
医 業 外 収 益	3,014,415	2,738,932	△275,483	90.9
特 別 利 益	15,890	35,249	19,359	221.8
海 浜 病 院 事 業 収 益	7,534,119	7,609,824	75,705	101.0
医 業 収 益	5,694,122	5,980,413	286,291	105.0
医 業 外 収 益	1,839,697	1,628,576	△211,121	88.5
特 別 利 益	300	835	535	278.2
合 計	16,892,131	16,907,309	15,178	100.1

イ 収益的支出

(ア) 青葉病院

青葉病院事業費用は、予算額93億5,786万円に対し決算額は92億2,063万円（執行率98.5%）で、不用額は1億3,723万円である。

不用額の主なものは、看護師の育児休業の取得などによる医業費用の給与費7,452万円である。

(イ) 海浜病院

海浜病院事業費用は、予算額75億3,367万円に対し決算額は73億8,927万円（執行率98.1%）で、不用額は1億4,440万円である。

不用額の主なものは、入院患者数の減少により給食業務委託料が減となったことなどによる医業費用の経費9,086万円である。

表3 予算執行状況（収益的支出）

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執 行 率
青 葉 病 院 事 業 費 用	9,357,867	9,220,635	137,232	98.5
医 業 費 用	8,843,901	8,695,875	148,026	98.3
医 業 外 費 用	500,913	499,949	964	99.8
特 別 損 失	12,053	24,810	△12,757	205.8
予 備 費	1,000		1,000	
海 浜 病 院 事 業 費 用	7,533,675	7,389,270	144,405	98.1
医 業 費 用	7,358,707	7,201,588	157,119	97.9
医 業 外 費 用	167,240	163,884	3,356	98.0
特 別 損 失	6,728	23,798	△17,070	353.7
予 備 費	1,000		1,000	
合 計	16,891,542	16,609,905	281,637	98.3

(2) 資本的収入及び支出

ア 資本的収入

(ア) 青葉病院

青葉病院資本的収入は、予算額8,381万円に対し決算額は7,381万円（収入割合88.1%）で、予算額に比べ1,000万円の減額である。

予算額に比べ減額となった主なものは、建設改良費が減となったことによる企業債1,000万円である。

(イ) 海浜病院

海浜病院資本的収入は、予算額5億8,200万円に対し決算額は5億5,500万円（収入割合95.4%）で、予算額に比べ2,700万円の減額である。

予算額に比べ減額となった主なものは、建設改良費が減となったことによる企業債2,700万円である。

表4 予算執行状況（資本的収入）

（単位：千円、%）

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収入割合
青葉病院資本的収入	83,814	73,812	△10,002	88.1
企 業 債	77,000	67,000	△10,000	87.0
固定資産売却代金	6,813	6,812	△1	100.0
諸 収 入	1	0	△1	0
海浜病院資本的収入	582,002	555,000	△27,002	95.4
企 業 債	582,000	555,000	△27,000	95.4
固定資産売却代金	1	0	△1	0
諸 収 入	1	0	△1	0
合 計	665,816	628,812	△37,004	94.4

イ 資本的支出

(ア) 青葉病院

青葉病院資本的支出は、予算額10億4,579万円に対し決算額は10億3,606万円（執行率99.1%）で、不用額は973万円である。

不用額の主なものは、地上デジタル放送対応工事費に契約差額が生じたことによる病院整備費919万円である。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額9億6,224万円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額16万円及び過年度分損益勘定留保資金9億6,208万円で補てんしている。

(イ) 海浜病院

海浜病院資本的支出は、予算額12億4,794万円に対し決算額は12億3,557万円（執行率99.0%）で、不用額は1,237万円である。

不用額の主なものは、病院情報システムに係る委託料が減となったことによる開発費623

万円である。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額6億8,057万円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額81万円、過年度分損益勘定留保資金7,747万円及び当年度分損益勘定留保資金6億228万円で補てんしている。

表5 予算執行状況（資本的支出）

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執 行 率
青葉病院資本的支出	1,045,797	1,036,060	9,737	99.1
建設改良費	79,000	69,263	9,737	87.7
企業債償還金	966,797	966,797	0	100.0
海浜病院資本的支出	1,247,947	1,235,576	12,371	99.0
建設改良費	584,000	577,859	6,141	98.9
開発費	17,850	11,620	6,230	65.1
企業債償還金	646,097	646,097	0	100.0
合 計	2,293,744	2,271,636	22,108	99.0

表6 建設改良費の概要

（単位：千円）

区 分	内 容	金 額
青葉病院	工事等	直流電源設備外改修工事
	医療機器購入	HDTV 鏡視下内視鏡手術システム〔手術室〕
		胎児集中監視システム〔4階東病棟〕
		血液浄化装置〔ICU〕
海浜病院	工事等	NICU 病棟空調設備改修工事
		NICU 病棟空調設備改修電気設備工事
		地上デジタル放送対応化工事
	医療機器購入	血管撮影システム〔血管撮影室〕
		デジタルガンマカメラ〔核医学検査室〕

（注） 医療機器購入欄の〔 〕は、配置先を示す。

3 経営成績

(1) 青葉病院

ア 青葉病院事業収益

青葉病院事業収益は、決算額92億8,677万円で、前年度に比較し1億5,180万円（1.7%）増加している。

(ア) 医業収益

医業収益は、決算額65億1,522万円で、前年度に比較し4億9,284万円（8.2%）増加しているが、これは主に診療報酬の改定に伴う診療単価の上昇による入院収益及び耳鼻咽喉科等の患者数の増による外来収益が増加したことによるものである。

医業収益の内訳は、入院収益45億8,786万円（対前年度比3億6,816万円〔8.7%〕増）及び外来収益17億5,839万円（対前年度比1億2,873万円〔7.9%〕増）である。

(イ) 医業外収益

医業外収益は、決算額27億3,642万円で、前年度に比較し3億7,496万円（12.1%）減少しているが、これは主に一般会計負担金が減少したことによるものである。

医業外収益の内訳は、一般会計負担金26億5,286万円（対前年度比3億5,461万円〔11.8%〕減）である。

(ウ) 特別利益

特別利益は、決算額3,512万円である。

イ 青葉病院事業費用

青葉病院事業費用は、決算額92億1,026万円で、前年度に比較し7,529万円（0.8%）増加している。

(ア) 医業費用

医業費用は、決算額85億1,968万円で、前年度に比較し1億856万円（1.3%）増加しているが、これは主に病院情報システムに係る賃借料の増などにより経費が増加したことによるものである。

医業費用の内訳は、給与費39億5,572万円（対前年度比6,634万円〔1.7%〕増）、経費19億1,642万円（対前年度比8,866万円〔4.9%〕増）及び材料費16億4,517万円（対前年度比6,196万円〔3.9%〕増）である。

(イ) 医業外費用

医業外費用は、決算額6億6,576万円で、前年度に比較し3,097万円（4.4%）減少しているが、これは主に雑損失が減少したことによるものである。

医業外費用の内訳は、支払利息及び企業債取扱諸費3億9,998万円（対前年度比1,563万円〔3.8%〕減）及び雑損失1億7,895万円（対前年度比1,833万円〔9.3%〕減）である。

(ウ) 特別損失

特別損失は、決算額2,480万円である。

ウ 当年度純利益

青葉病院事業収益から青葉病院事業費用を差し引いた当年度純利益は7,651万円である。これにより、前年度繰越欠損金15億2,857万円から当年度純利益を差し引いた当年度未処理欠損金は、14億5,206万円となっている。

表7 損益の状況（青葉病院）

（単位：千円、％）

区 分	平成22年度	平成21年度	対前年度増減	対前年度比率
青葉病院事業収益	9,286,775	9,134,966	151,809	101.7
医 業 収 益	6,515,226	6,022,379	492,847	108.2
医 業 外 収 益	2,736,420	3,111,388	△374,968	87.9
特 別 利 益	35,129	1,199	33,930	著増
青葉病院事業費用	9,210,262	9,134,966	75,296	100.8
医 業 費 用	8,519,683	8,411,118	108,565	101.3
医 業 外 費 用	665,769	696,748	△30,979	95.6
特 別 損 失	24,810	27,100	△2,290	91.6
当 年 度 純 利 益	76,513	—	76,513	—

（2）海浜病院

ア 海浜病院事業収益

海浜病院事業収益は、決算額76億460万円で、前年度に比較し4億257万円（5.6％）増加している。

（ア）医業収益

医業収益は、決算額59億7,618万円で、前年度に比較し4億5,644万円（8.3％）増加しているが、これは主に診療報酬の改定及び新生児科の施設基準の取得に伴う診療単価の上昇により入院収益が増加したことによるものである。

医業収益の内訳は、入院収益43億2,398万円（対前年度比4億4,040万円〔11.3％〕増）及び外来収益15億772万円（対前年度比6,092万円〔3.9％〕減）である。

（イ）医業外収益

医業外収益は、決算額16億2,762万円で、前年度に比較し5,388万円（3.2％）減少しているが、これは主に一般会計負担金が減少したことによるものである。

医業外収益の内訳は、一般会計負担金14億8,891万円（対前年度比1億6,063万円〔9.7％〕減）である。

（ウ）特別利益

特別利益は、決算額80万円である。

イ 海浜病院事業費用

海浜病院事業費用は、決算額73億8,493万円で、前年度に比較し1億8,290万円（2.5％）増加している。

（ア）医業費用

医業費用は、決算額70億5,355万円で、前年度に比較し8,826万円（1.3％）増加しているが、これは主に診療材料費の増などにより材料費が増加したことによるものである。

医業費用の内訳は、給与費36億6,652万円（対前年度比7,312万円〔2.0％〕増）、経費16億8,088万円（対前年度比7,125万円〔4.1％〕減）及び材料費13億483万円（対前年度比6,151万円〔4.9％〕増）である。

(イ) 医業外費用

医業外費用は、決算額3億759万円で、前年度に比較し7,971万円(35.0%)増加しているが、これは主に雑損失が増加したことによるものである。

医業外費用の内訳は、雑損失2億3,983万円(対前年度比8,289万円〔52.8%〕増)である。

(ウ) 特別損失

特別損失は、決算額2,379万円である。

ウ 当年度純利益

海浜病院事業収益から海浜病院事業費用を差し引いた当年度純利益は2億1,966万円である。

これにより、前年度繰越欠損金5億3,142万円から当年度純利益を差し引いた当年度未処理欠損金は、3億1,175万円となっている。

表8 損益の状況(海浜病院)

(単位：千円、%)

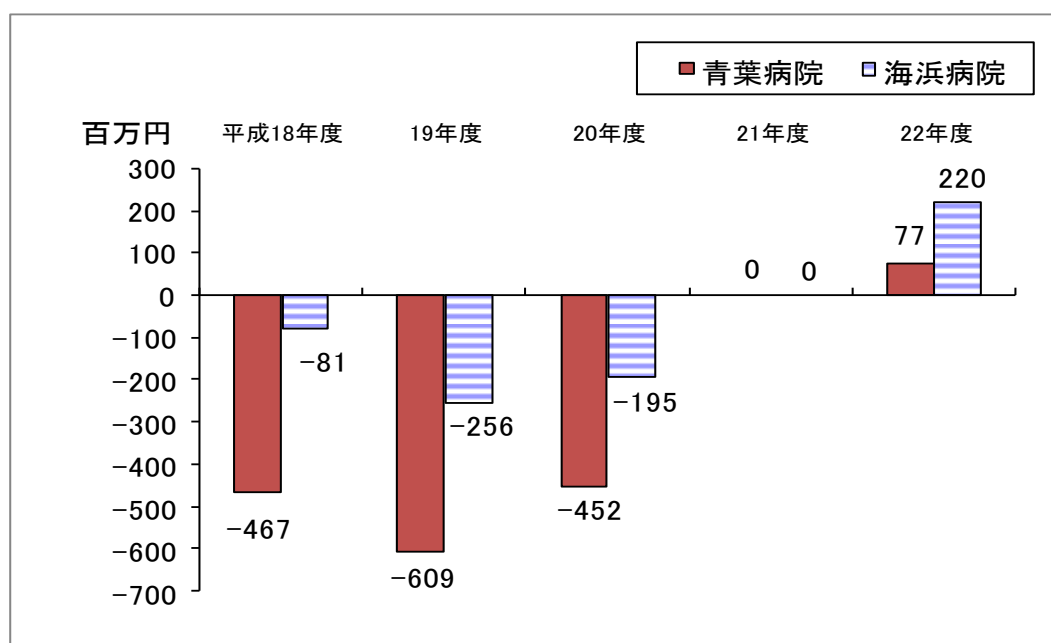
区 分	平成22年度	平成21年度	対前年度増減	対前年度比率
海浜病院事業収益	7,604,606	7,202,031	402,575	105.6
医 業 収 益	5,976,182	5,519,734	456,449	108.3
医 業 外 収 益	1,627,623	1,681,504	△53,881	96.8
特 別 利 益	800	793	7	100.9
海浜病院事業費用	7,384,938	7,202,031	182,907	102.5
医 業 費 用	7,053,552	6,965,291	88,261	101.3
医 業 外 費 用	307,592	227,878	79,714	135.0
特 別 損 失	23,794	8,862	14,932	268.5
当 年 度 純 利 益	219,668	—	219,668	—

表9 累積欠損金の推移

(単位：千円)

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
青葉病院	△467,422	△1,076,635	△1,528,577	△1,528,577	△1,452,064
海浜病院	△80,674	△336,324	△531,427	△531,427	△311,759
合 計	△548,096	△1,412,959	△2,060,004	△2,060,004	△1,763,823

図3 損益の推移



4 財政状態

(1) 青葉病院

ア 資産

資産合計は、228億3,004万円で、前年度に比較し8億4,583万円（3.6%）減少している。

固定資産は、187億266万円で、前年度に比較し9億2,147万円（4.7%）減少しているが、これは主に減価償却により建物の簿価が減少したことによるものである。

流動資産は、33億7,469万円で、前年度に比較し1億6,246万円（5.1%）増加しているが、これは主に一般会計負担金等の未収金が増加したことによるものである。

繰延勘定は、7億5,269万円で、前年度に比較し8,682万円（10.3%）減少しているが、これは主に控除対象外消費税額が減少したことによるものである。

イ 負債

負債合計は、流動負債6億3,253万円で、前年度に比較し2,255万円（3.4%）減少しているが、これは主に病院情報システムに係る委託料等の未払金が増加したことによるものである。

ウ 資本

資本合計は、221億9,751万円で、前年度に比較し8億2,328万円（3.6%）減少している。

資本金は、234億7,434万円で、前年度に比較し8億9,979万円（3.7%）減少しているが、これ

は借入資本金が減少したことによるものである。

剰余金は、マイナス12億7,682万円で、前年度に比較し7,651万円（5.7%）増加しているが、これは欠損金が減少したことによるものである。

表10 貸借対照表（青葉病院）

（単位：千円、%）

区 分	平成22年度	平成21年度	対前年度増減	対前年度比率
資 産	22,830,046	23,675,883	△845,837	96.4
固定資産	18,702,660	19,624,137	△921,477	95.3
流動資産	3,374,696	3,212,231	162,466	105.1
繰延勘定	752,690	839,515	△86,825	89.7
負 債	632,534	655,087	△22,553	96.6
流動負債	632,534	655,087	△22,553	96.6
資 本	22,197,512	23,020,796	△823,284	96.4
資 本 金	23,474,342	24,374,139	△899,797	96.3
剰 余 金	△1,276,829	△1,353,342	76,513	94.3

（２）海浜病院

ア 資産

資産合計は、79億2,030万円で、前年度に比較し2億4,543万円（3.2%）増加している。

固定資産は、65億7,457万円で、前年度に比較し1億5,573万円（2.4%）増加しているが、これは主に器械備品が増加したことによるものである。

流動資産は、12億5,923万円で、前年度に比較し1億1,544万円（10.1%）増加しているが、これは主に補助金等の未収金が増加したことによるものである。

繰延勘定は、8,650万円で、前年度に比較し2,574万円（22.9%）減少しているが、これは病院情報システム整備に係る開発費が減少したことによるものである。

イ 負債

負債合計は、流動負債11億9,316万円で、前年度に比較し1億2,685万円（11.9%）増加しているが、これは主にその他流動負債が増加したことによるものである。

ウ 資本

資本合計は、67億2,713万円で、前年度に比較し1億1,857万円（1.8%）増加している。

資本金は、34億2,656万円で、前年度に比較し9,109万円（2.6%）減少しているが、これは借入資本金が減少したことによるものである。

剰余金は、33億58万円で、前年度に比較し2億967万円（6.8%）増加しているが、これは主に欠損金が減少したことによるものである。

表11 貸借対照表（海浜病院）

（単位：千円、％）

区 分	平成22年度	平成21年度	対前年度増減	対前年度比率
資 産	7,920,306	7,674,872	245,434	103.2
固定資産	6,574,571	6,418,838	155,733	102.4
流動資産	1,259,234	1,143,787	115,447	110.1
繰延勘定	86,501	112,247	△25,746	77.1
負 債	1,193,167	1,066,308	126,859	111.9
流動負債	1,193,167	1,066,308	126,859	111.9
資 本	6,727,139	6,608,564	118,575	101.8
資本金	3,426,560	3,517,656	△91,097	97.4
剰余金	3,300,580	3,090,908	209,672	106.8

（３）企業債の推移

企業債の推移は、表12及び図４・５のとおりである。

表12 企業債の推移

（単位：百万円）

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
青葉病院	発行額	280	87	155	108
	償還額	1,449	1,448	883	920
	残 高	24,632	23,271	22,543	21,731
海浜病院	発行額	353	478	305	342
	償還額	463	463	591	623
	残 高	3,112	3,127	2,841	2,561
合 計	発行額	633	565	460	450
	償還額	1,912	1,910	1,474	1,542
	残 高	27,744	26,398	25,384	24,292

図4 企業債の推移（青葉病院）

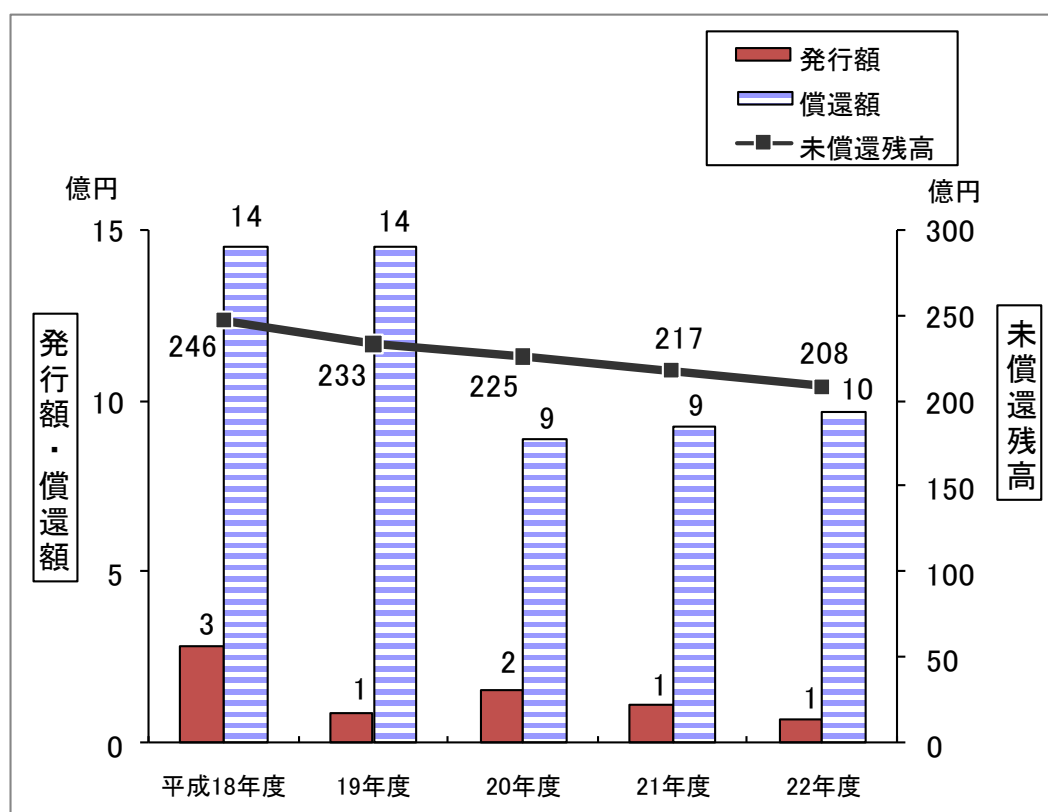
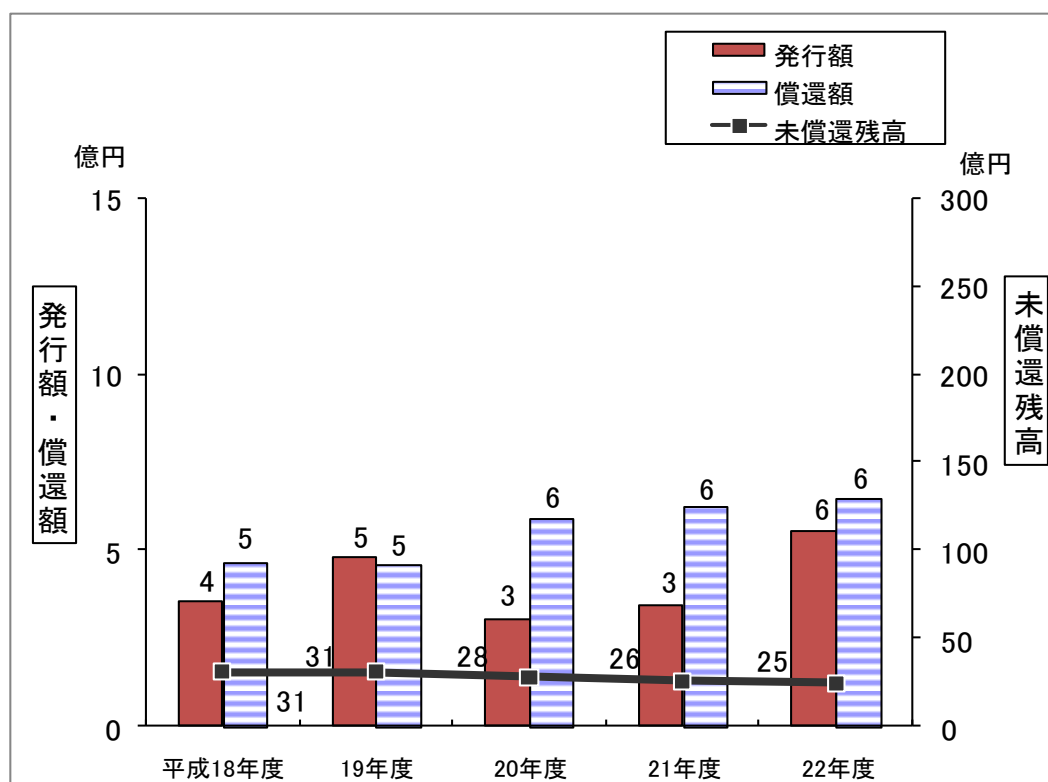


図5 企業債の推移（海浜病院）



5 経営指標

(1) 青葉病院

医業収支比率は、82.9%で、前年度に比較し4.4ポイント上昇しているが、これは主に入院及び外来収益が増加したことによるものである。

流動比率は、533.5%で、前年度に比較し43.1ポイント上昇しているが、これは主に流動資産が増加したことによるものである。

一般会計繰入金対総収益比率は、28.7%で、前年度に比較し4.3ポイント低下しているが、これは主に一般会計負担金が減少したことによるものである。

職員給与費対医業収益比率は、56.0%で、前年度に比較し2.9ポイント低下しているが、これは主に入院及び外来収益が増加したことによるものである。

(2) 海浜病院

医業収支比率は、94.0%で、前年度に比較し8.5ポイント上昇しているが、これは主に入院収益が増加したことによるものである。

流動比率は、105.5%で、前年度に比較し1.8ポイント低下しているが、これは主に流動負債が増加したことによるものである。

一般会計繰入金対総収益比率は、19.7%で、前年度に比較し3.3ポイント低下しているが、これは主に一般会計負担金が減少したことによるものである。

職員給与費対医業収益比率は、55.3%で、前年度に比較し5.1ポイント低下しているが、これは主に入院収益が増加したことによるものである。

表13 経営指標

(単位：%)

区 分		平成22年度	平成21年度	対前年度増減
青 葉 病 院	医 業 収 支 比 率	82.9	78.5	4.4
	流 動 比 率	533.5	490.4	43.1
	一般会計繰入金対総収益比率	28.7	33.0	△4.3
	職員給与費対医業収益比率	56.0	58.9	△2.9
海 浜 病 院	医 業 収 支 比 率	94.0	85.5	8.5
	流 動 比 率	105.5	107.3	△1.8
	一般会計繰入金対総収益比率	19.7	23.0	△3.3
	職員給与費対医業収益比率	55.3	60.4	△5.1

- (注) 1 医業収支比率：医業収益／医業費用×100
 2 流動比率：流動資産／流動負債×100
 3 一般会計繰入金対総収益比率：一般会計繰入金／総収益×100
 4 職員給与費対医業収益比率：職員給与費／医業収益×100

図6 一般会計繰入金の推移（青葉病院）

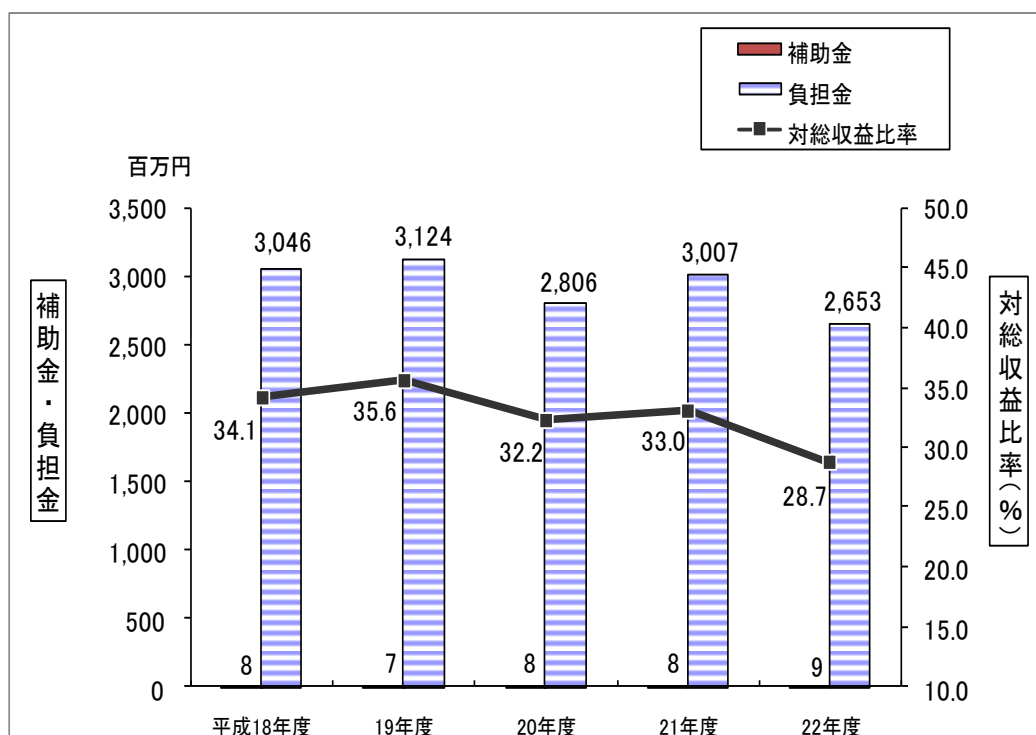
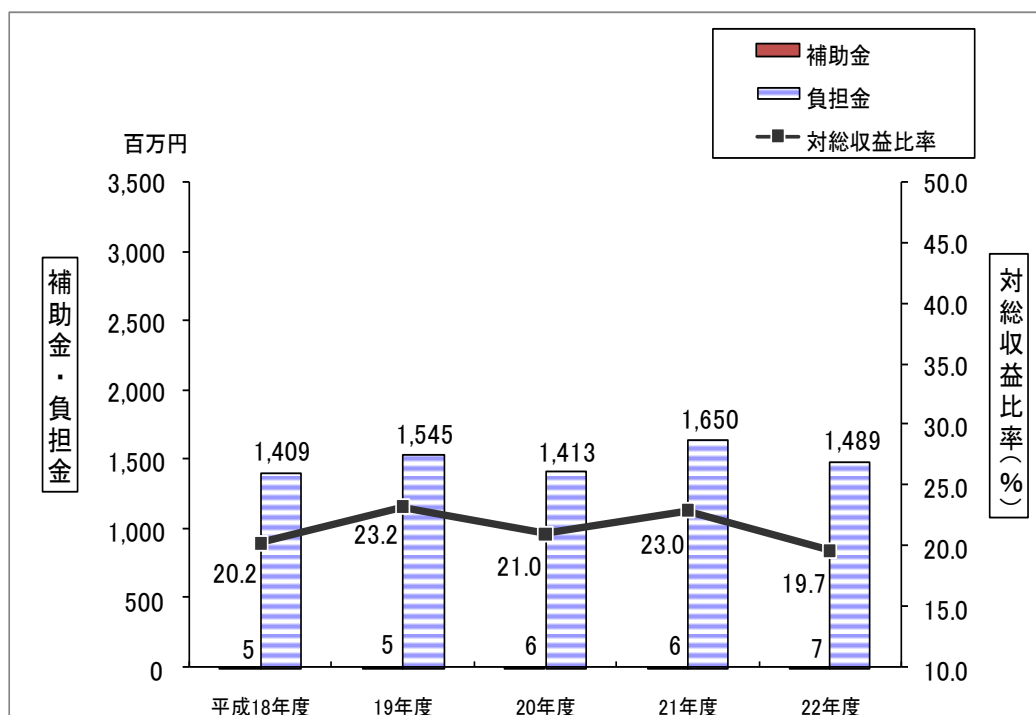


図7 一般会計繰入金の推移（海浜病院）



以上が病院事業会計の決算状況である。

6 むすび

業務の状況については、入院患者数が青葉病院では9万8,407人で、前年度に比較し1,211人増加し、海浜病院では7万6,552人で、前年度に比較し3,313人減少している。病床利用率は、青葉病院では70.9%で、前年度に比較し0.8ポイント上昇し、海浜病院では69.7%で、前年度に比較し3.0ポイント低下している。また、外来患者数は、青葉病院では20万3,322人で、前年度に比較し2,992人増加し、海浜病院では15万2,344人で、前年度に比較し2,849人減少している。

損益の状況については、青葉病院では事業収益が92億8,677万円で、診療報酬の改定に伴う診療単価の上昇などにより前年度に比較し1億5,180万円増加し、事業費用が前年度に比較し、7,529万円増加している。また、海浜病院では事業収益が76億460万円で、診療報酬の改定及び施設基準の取得による診療単価の上昇などにより前年度に比較し4億257万円増加し、事業費用が前年度に比較し1億8,290万円増加している。これにより当年度純利益は青葉病院では7,651万円、海浜病院では2億1,966万円それぞれ生じたことから、累積欠損金は両病院とも減額となり、青葉病院で14億5,206万円、海浜病院で3億1,175万円、合計17億6,382万円となっている。

経営状況については、業務活動の能率を示す医業収支比率が、青葉病院では82.9%で、入院及び外来収益が増加したことにより前年度に比較し4.4ポイント上昇している。海浜病院では94.0%で、入院収益が増加したことにより前年度に比較し8.5ポイント上昇している。また、短期的な資金繰りの状況を示す流動比率が、青葉病院では533.5%で、流動資産が増加したことにより前年度に比較し43.1ポイント上昇し、海浜病院では105.5%で、流動負債が増加したことにより前年度に比較し1.8ポイント低下している。

当年度の状況は以上のとおりであるが、病院事業においては、臨床研修医を増やすとともに、新たに薬学生の実務実習指導を行うなど、医師・薬剤師の資質の向上や地域医療の充実に取り組んでいるところである。また、病院情報システム整備の推進などにより患者サービスの向上にも引き続き取り組んでいるところである。

しかし、当年度の損益は、両病院とも純利益が生じたものの、累積欠損金は依然として多額となっている。このため、経営の健全化をさらに推進する必要があることから、病床利用率の向上はもとより、診療報酬の加算が得られる施設基準を取得するなど増収に努めるとともに、薬品や診療材料等のコスト縮減や施設管理業務委託料などの削減に取り組まれない。

病院事業は「千葉市立病院改革プラン」（平成21年度～25年度）に基づき、平成23年度から経営形態を地方公営企業法全部適用へ移行し、事業経営の総合的な改善に取り組んでいるところであり、同プランの中の事業計画（平成21年度～23年度）で、経営の効率化を図るための取組事項を定めているが、事業計画が平成23年度で終了することから、同プランの見直しや事業計画の策定にあたっては、業務実績の分析・評価を行い、累積欠損金の縮減に向けて、具体的な取組事項を検討されたい。

今後の事業運営にあたっては、市民の高度化・多様化する医療ニーズに的確に対応するとともに、両病院の有する専門的な診療機能を十分に発揮して良質な医療を安定的に提供することにより、地域の中核的な病院として市民の健康保持の増進に一層寄与されることを要望する。

下水道事業会計

1 業務実績

総処理水量は、1億2,150万1,527 m³（1日平均33万2,881 m³）で、前年度に比較し65万1,697 m³（0.5%）増加しており、汚水処理水量は、1億1,733万4,747 m³で、前年度に比較し27万4,857 m³（0.2%）増加している。

有収水量は、9,654万9,810 m³で、前年度に比較し164万8,063 m³（1.7%）増加しており、有収率は、82.3%で、前年度に比較し1.2ポイント上昇している。

整備率は、92.8%で、前年度に比較し0.4ポイント低下しており、下水道汚水処理普及率は、97.2%で、前年度に比較し0.1ポイント上昇している。また、接続人口は91万9,415人で、前年度に比較し6,666人増加しており、接続率は、98.6%で、前年度に比較し0.2ポイント上昇している。

表1 業務実績

区 分	平成22年度	平成21年度	対前年度増減	対前年度比率 (%)
総 処 理 水 量 (m ³)	121,501,527	120,849,830	651,697	100.5
1 日 平 均 処 理 水 量 (m ³)	332,881	331,095	1,786	100.5
有 収 率 (%)	82.3	81.1	1.2	—
汚水処理水量 (m ³)	117,334,747	117,059,890	274,857	100.2
有 収 水 量 (m ³)	96,549,810	94,901,747	1,648,063	101.7
整 備 率 (%)	92.8	93.2	△0.4	—
整 備 面 積 (ha)	12,180	12,173	7	100.1
事業認可面積 (ha)	13,121	13,067	54	100.4
下水道汚水処理普及率 (%)	97.2	97.1	0.1	—
行政区域内人口 (人)	959,415	955,022	4,393	100.5
整備区域内人口 (人)	932,566	927,770	4,796	100.5
接 続 率 (%)	98.6	98.4	0.2	—
接 続 人 口 (人)	919,415	912,749	6,666	100.7

- (注) 1 有収水量とは、汚水処理水量のうち料金対象となるものである。
2 行政区域内人口、整備区域内人口及び接続人口は、各年度末の数値である。
3 有収率：有収水量／汚水処理水量×100
整備率：整備面積／事業認可面積×100
下水道汚水処理普及率：整備区域内人口／行政区域内人口×100
接続率：接続人口／整備区域内人口×100

図1 汚水処理水量等の推移

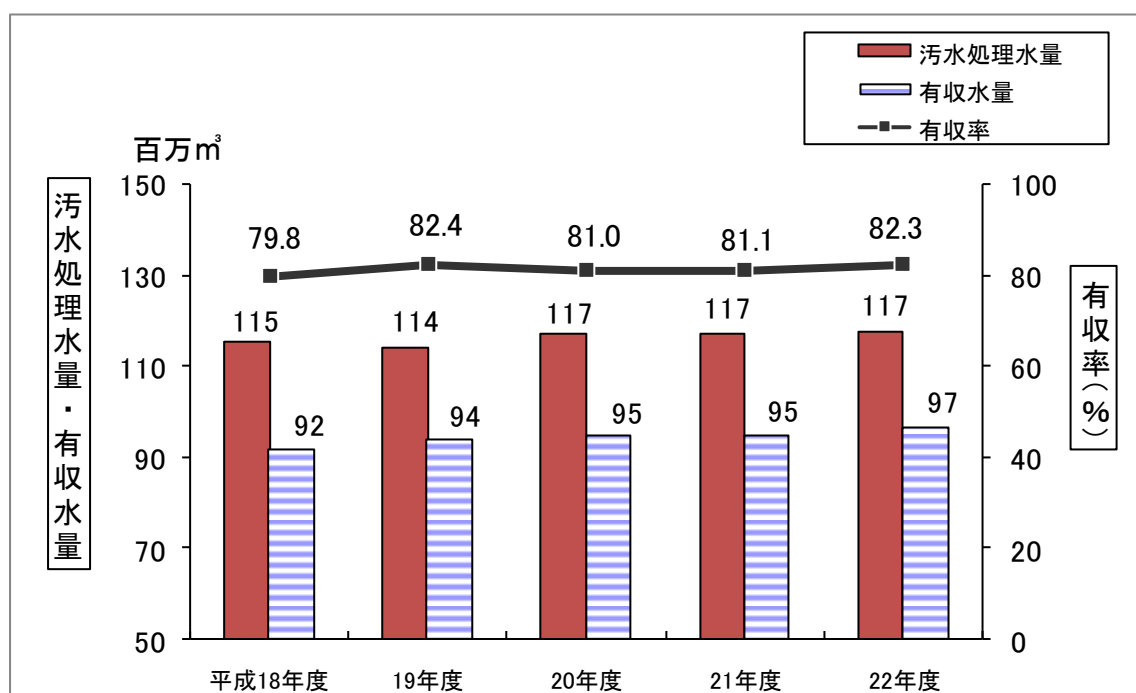
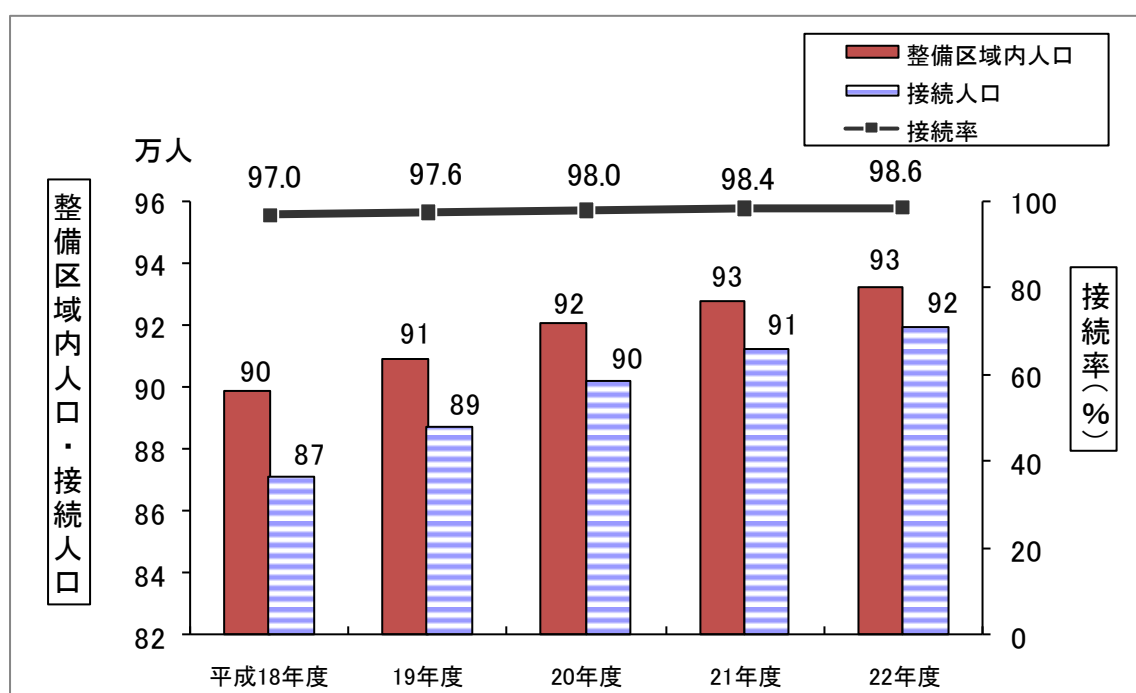


図2 接続率等の推移



2 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出

ア 収益的収入

下水道事業収益は、予算額227億1,537万円に対し決算額は230億6,748万円(収入割合101.6%)で、予算額に比べ3億5,210万円の増額である。

予算額に比べ増額となった主なものは、過年度分の下水道使用料等の特別利益3億5,836万円である。

表2 予算執行状況(収益的収入)

(単位:千円、%)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収入割合
下水道事業収益	22,715,374	23,067,482	352,108	101.6
営 業 収 益	22,553,750	22,497,275	△56,475	99.7
営 業 外 収 益	161,624	211,841	50,217	131.1
特 別 利 益	—	358,367	358,367	—

イ 収益的支出

下水道事業費用は、予算額220億8,929万円に対し決算額は213億1,647万円(執行率96.5%)で、不用額は7億7,282万円である。

不用額の主なものは、営業費用では印旛沼流域下水道維持管理負担金が減少したことによる業務費3億697万円であり、営業外費用では企業債の借入額が減となったことなどによる支払利息及び企業債取扱諸費1億1,481万円である。

表3 予算執行状況(収益的支出)

(単位:千円、%)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執 行 率
下水道事業費用	22,089,299	21,316,479	772,820	96.5
営 業 費 用	14,321,782	13,663,534	658,248	95.4
営 業 外 費 用	7,637,875	7,523,059	114,816	98.5
特 別 損 失	124,642	129,886	△5,244	104.2
予 備 費	5,000		5,000	

(2) 資本的収入及び支出

ア 資本的収入

資本的収入は、予算額174億1,567万円に対し決算額は126億8,475万円(収入割合72.8%)で、予算額に比べ20億2,056万円の減額である。

予算額に比べ減額となった主なものは、建設改良費が減となったことによる建設企業債8億7,491万円及び発行額が減となったことによる資本費平準化債8億2,900万円である。

表4 予算執行状況（資本的収入）

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額	決 算 額	翌年度 繰越額	予算額に比べ 決算額の増減	収入割合
資 本 的 収 入	17,415,677	12,684,751	2,710,357	△2,020,569	72.8
企 業 債	10,988,515	7,814,300	1,447,300	△1,726,915	71.1
他 会 計 出 資 金	124,806	124,806	0	0	100
補 助 金	6,105,758	4,540,742	1,263,057	△301,959	74.4
負 担 金	45,266	55,434	0	10,168	122.5
水洗便所普及事業収入	40,890	33,405	0	△7,485	81.7
そ の 他 資 本 的 収 入	110,442	116,048	0	5,606	105.1
固 定 資 産 売 却 代 金	—	16	0	16	—

イ 資本的支出

資本的支出は、予算額265億2,431万円に対し決算額は228億7,063万円（執行率86.2％）で、不用額は9億4,035万円である。

不用額の主なものは、契約差額が生じたことなどによる建設改良費の管渠布設費4億3,583万円である。

翌年度繰越額は、27億1,333万円で、その内訳は、下水道排水施設工事等の建設改良費繰越額21億1,333万円及び中央浄化センター電気設備改築更新工事等の継続費通次繰越額6億円である。

資本的収入額（前年度財源充当額4,270万円を除く。）が資本的支出額に不足する額102億2,857万円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額2億4,128万円、過年度分損益勘定留保資金12億2,226万円、当年度分損益勘定留保資金81億4,544万円、減債積立金4億7,479万円で補てんしている。さらに不足する額1億4,480万円については、当年度において許可済で未発行の企業債により翌年度に財源措置することとしている。

表5 予算執行状況（資本的支出）

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額	決 算 額	翌年度 繰越額	不 用 額	執行率
資 本 的 支 出	26,524,317	22,870,631	2,713,335	940,351	86.2
建 設 改 良 費	14,115,507	10,494,206	2,713,335	907,965	74.3
固 定 資 産 購 入 費	64,544	44,645	0	19,899	69.2
償 還 金	12,281,141	12,281,141	0	0	100.0
水洗便所普及事業費	53,344	44,021	0	9,323	82.5
国庫補助金返還金	9,782	6,618	0	3,164	67.7

表6 建設改良費の概要

(単位：千円)

区 分	内 容	金 額
建設改良工事	南部浄化センターC系水処理施設土木工事	2,377,041
	中央雨水ポンプ場機械設備工事	1,194,900
	下水道排水施設工事（中央20-1工区）	1,082,000

3 経 営 成 績

(1) 下水道事業収益

下水道事業収益は、決算額223億9,623万円で、前年度に比較し6億9,700万円（3.2%）増加している。

ア 営業収益

営業収益は、決算額218億3,998万円で、前年度に比較し3億140万円（1.4%）増加しているが、これは主に有収水量の増などにより下水道使用料が増加したことによるものである。

営業収益の内訳は、下水道使用料131億4,009万円（対前年度比3億5,730万円〔2.8%〕増）及び一般会計負担金86億9,076万円（対前年度比5,543万円〔0.6%〕減）である。

イ 営業外収益

営業外収益は、決算額2億1,494万円で、前年度に比較し5,657万円（35.7%）増加しているが、これは主に雑収益が増加したことによるものである。

営業外収益の内訳は、一般会計補助金1億1,699万円（対前年度比1,762万円〔17.7%〕増）及び雑収益9,772万円（対前年度比3,942万円〔67.6%〕増）である。

ウ 特別利益

特別利益は、決算額3億4,130万円である。

(2) 下水道事業費用

下水道事業費用は、決算額208億8,651万円で、前年度に比較し3億526万円（1.4%）減少している。

ア 営業費用

営業費用は、決算額134億3,328万円で、前年度に比較し1億2,302万円（0.9%）減少しているが、これは主に処理場施設等に係る資産減耗費が減少したことによるものである。

営業費用の内訳は、減価償却費80億1,523万円（対前年度比1億8,028万円〔2.3%〕増）及び業務費22億1,330万円（対前年度比19万円〔0.0%〕増）である。

イ 営業外費用

営業外費用は、決算額73億2,352万円で、前年度に比較し1億6,641万円（2.2%）減少しているが、これは主に支払利息及び企業債取扱諸費が減少したことによるものである。

営業外費用の内訳は、支払利息及び企業債取扱諸費71億9,960万円（対前年度比1億6,853万円〔2.3%〕減）である。

ウ 特別損失

特別損失は、決算額1億2,969万円である。

(3) 当年度純利益

下水道事業収益から下水道事業費用を差し引いた当年度純利益は15億972万円である。

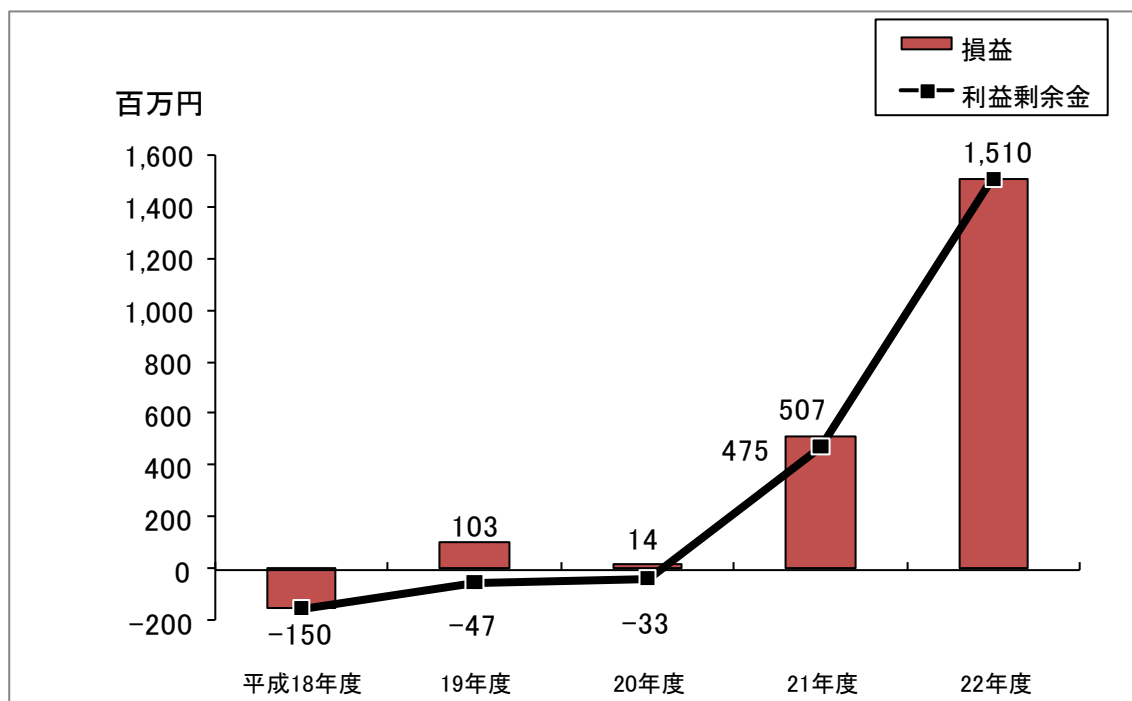
これにより、当年度未処分利益剰余金は15億972万円となり、その全額を企業債の償還に充てるため減債積立金に積み立てることとしている。

表 7 損益の状況

(単位:千円、%)

区 分	平成22年度	平成21年度	対前年度増減	対前年度比率
下水道事業収益	22,396,232	21,699,224	697,008	103.2
営 業 収 益	21,839,989	21,538,581	301,408	101.4
営業外収益	214,942	158,363	56,579	135.7
特 別 利 益	341,301	2,280	339,022	著増
下水道事業費用	20,886,512	21,191,777	△305,265	98.6
営 業 費 用	13,433,289	13,556,310	△123,021	99.1
営業外費用	7,323,527	7,489,941	△166,414	97.8
特 別 損 失	129,696	145,527	△15,830	89.1
当年度純利益	1,509,720	507,447	1,002,274	297.5

図 3 損益及び利益剰余金の推移



4 財 政 状 態

(1) 資産

資産合計は、6,078億2,149万円で、前年度に比較し14億7,483万円（0.2%）増加している。

固定資産は、6,042億3,683万円で、前年度に比較し29億2,349万円（0.5%）増加しているが、これは主に中央雨水1号貯留幹線等の構築物が増加したことによるものである。

流動資産は、35億6,978万円で、前年度に比較し13億5,495万円（27.5%）減少しているが、これは主に現金預金が増加したことによるものである。

繰延勘定は、1,488万円で、前年度に比較し9,371万円（86.3%）減少しているが、これは下水道台帳管理システム等の償却により開発費が減少したことによるものである。

(2) 負債

負債合計は、194億2,452万円で、前年度に比較し12億7,752万円（7.0%）増加している。

固定負債は、173億3,879万円で、前年度に比較し23億9,518万円（16.0%）増加しているが、これは資本費平準化債の発行により企業債が増加したことによるものである。

流動負債は、20億8,573万円で、前年度に比較し11億1,765万円（34.9%）減少しているが、これは主に建設改良費等の未払金が増加したことによるものである。

(3) 資本

資本合計は、5,883億9,697万円で、前年度に比較し1億9,730万円（0.0%）増加している。

資本金は、2,701億1,833万円で、前年度に比較し62億6,242万円（2.3%）減少しているが、これは主に借入資本金（建設企業債）が増加したことによるものである。

剰余金は、3,182億7,864万円で、前年度に比較し64億5,972万円（2.1%）増加しているが、これは主に下水道整備に係る国庫補助金が増加したことによるものである。

表8 貸借対照表

(単位:千円、%)

区 分	平成22年度	平成21年度	対前年度増減	対前年度比率
資 産	607,821,499	606,346,667	1,474,833	100.2
固定資産	604,236,837	601,313,339	2,923,497	100.5
流動資産	3,569,782	4,924,734	△1,354,952	72.5
繰延勘定	14,880	108,593	△93,713	13.7
負 債	19,424,521	18,146,994	1,277,527	107.0
固定負債	17,338,790	14,943,610	2,395,180	116.0
流動負債	2,085,731	3,203,384	△1,117,653	65.1
資 本	588,396,978	588,199,673	197,305	100.0
資 本 金	270,118,332	276,380,755	△6,262,423	97.7
剰 余 金	318,278,646	311,818,917	6,459,729	102.1

(4) 企業債の推移

企業債の推移は、表9及び図4のとおりである。

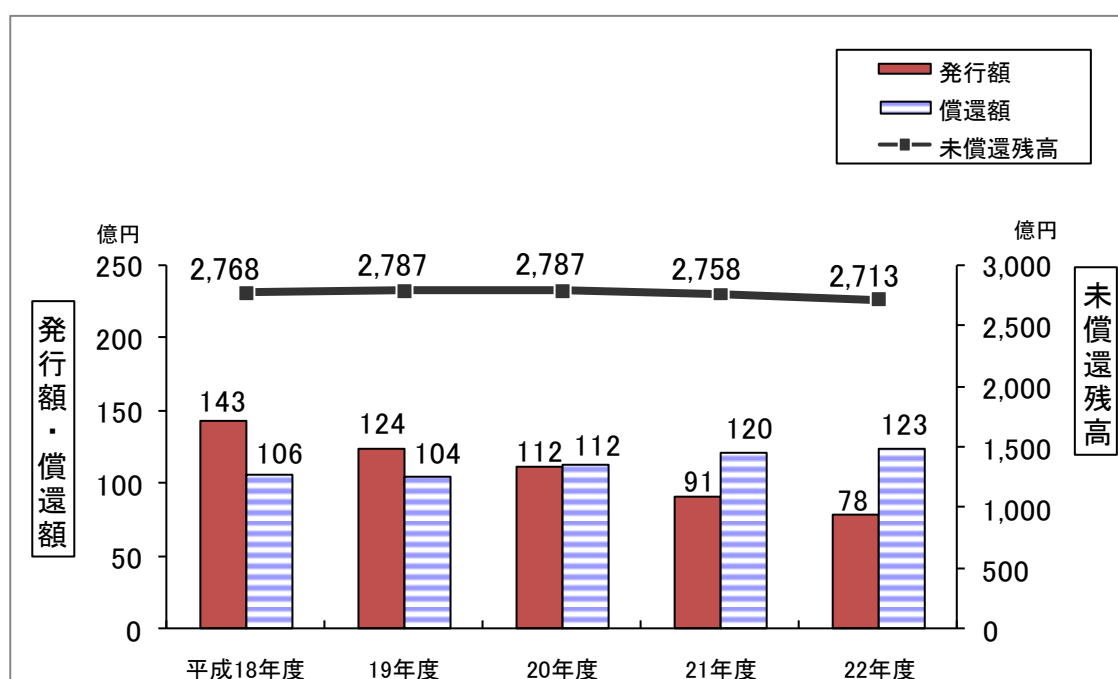
表9 企業債の推移

(単位：百万円)

区 分		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
建設企業債 (借入資本金)	発行額	11,968	9,478	7,841	5,742	4,914
	償還額	10,562	10,388	11,099	11,647	11,776
	残 高	270,921	270,011	266,753	260,848	253,986
資本費平準化債 (固定負債)	発行額	2,331	2,929	3,331	3,339	2,900
	償還額	0	46	92	365	505
	残 高	5,847	8,730	11,970	14,944	17,339
合 計	発行額	14,299	12,407	11,172	9,081	7,814
	償還額	10,562	10,434	11,191	12,012	12,281
	残 高	276,768	278,742	278,723	275,791	271,325

(注) 資本費平準化債： 企業債の償還期間が下水道施設の減価償却期間より短いことから構造的に生じる資金不足を補うために発行する企業債である。

図4 企業債の推移



5 経営指標

営業収支比率は、162.6%で、前年度に比較し3.7ポイント上昇しているが、これは主に下水道使用料の増により営業収益が増加したことによるものである。

流動比率は、171.2%で、前年度に比較し17.5ポイント上昇しているが、これは主に建設改良費等の未払金の減により流動負債が減少したことによるものである。

一般会計繰入金対総収益比率は、39.3%で、前年度に比較し1.5ポイント低下しているが、これは主に総収益が増加するとともに一般会計負担金が減少したことによるものである。

原価回収率は、112.9%で、前年度に比較し8.8ポイント上昇しているが、これは主に資産減耗費の減により汚水処理原価が低下したことによるものである。

表 10 経営指標

(単位：%)

区 分	平成 22 年度	平成 21 年度	対前年度増減
営 業 収 支 比 率	162.6	158.9	3.7
流 動 比 率	171.2	153.7	17.5
一般会計繰入金対総収益比率	39.3	40.8	△1.5
原 価 回 収 率	112.9	104.1	8.8

(注) 1 営業収支比率：営業収益／営業費用×100

2 流動比率：流動資産／流動負債×100

3 一般会計繰入金対総収益比率：一般会計繰入金／総収益×100

4 原価回収率：使用料単価／汚水処理原価

図 5 一般会計繰入金の推移

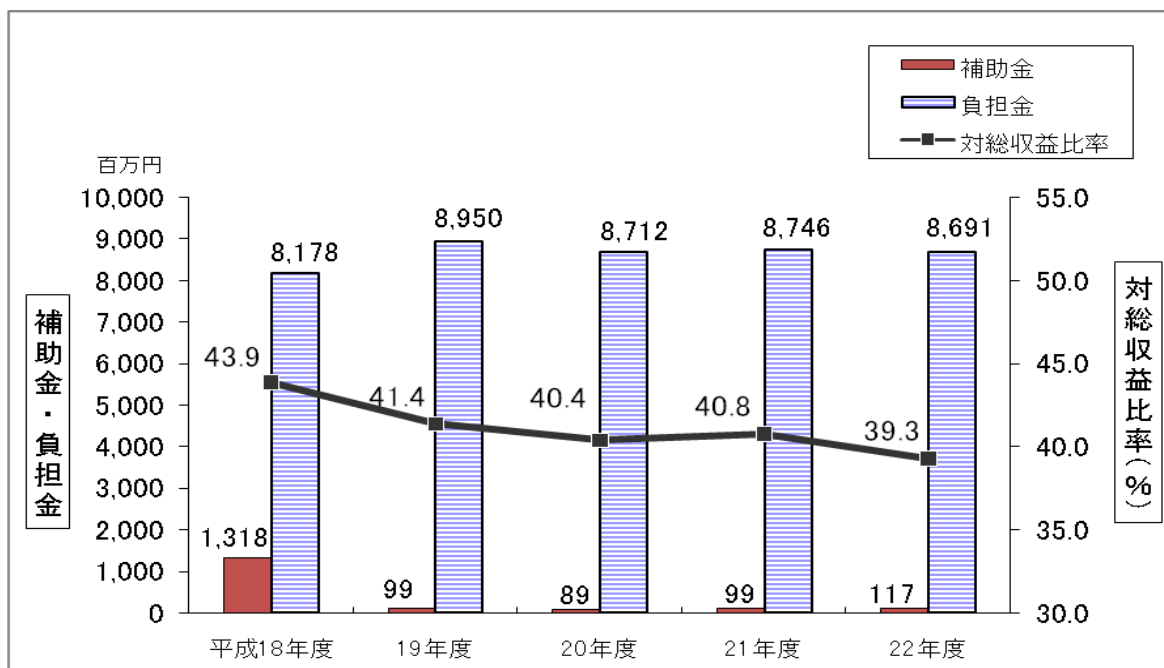
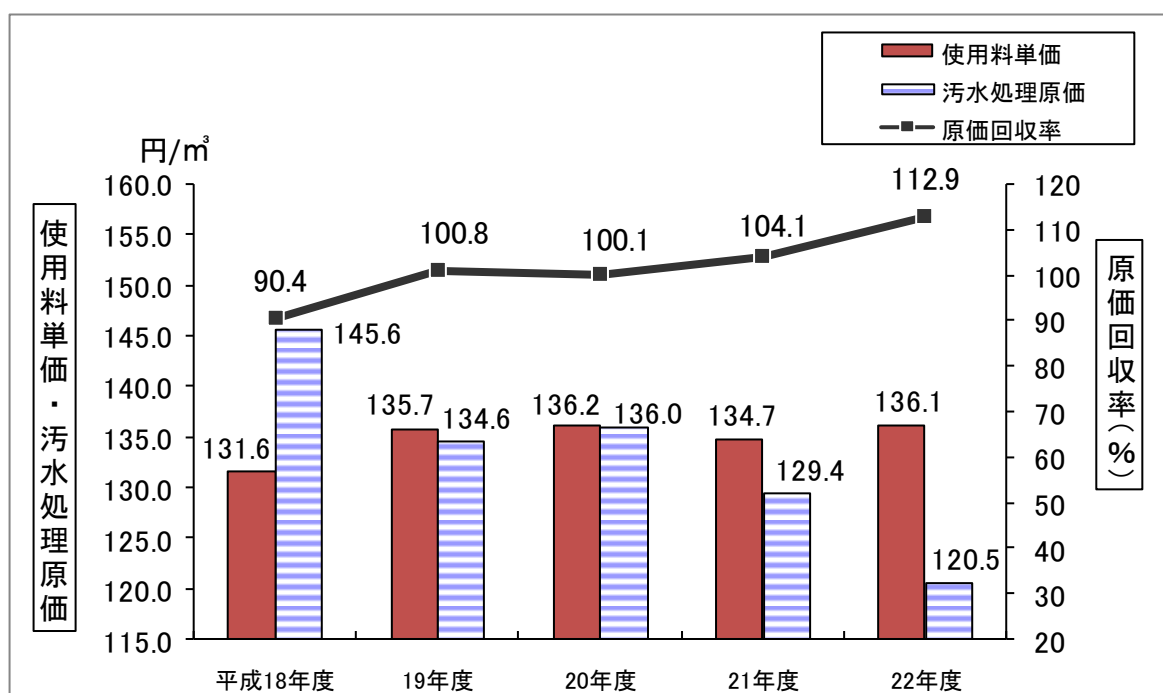


図6 原価回収率等の推移



- (注) 1 使用料単価：下水道使用料／有収水量
 2 汚水処理原価：汚水処理費／有収水量

以上が下水道事業会計の決算状況である。

6 むすび

業務の状況については、総処理水量が1億2,150万1,527 m³で、そのうち汚水処理水量は1億1,733万4,747 m³である。また、有収率は、汚水処理水量に対し、有収水量が9,654万9,810 m³で82.3%となり、前年度に比較し1.2ポイント上昇している。下水道汚水処理普及率は97.2%で前年度に比較し0.1ポイント上昇し、接続率は98.6%で前年度に比較し0.2ポイント上昇している。

損益の状況については、事業収益が223億9,623万円で、下水道使用料が増加したことなどにより前年度に比較し6億9,700万円増加しており、事業費用は208億8,651万円で、資産減耗費が減少したことなどにより前年度に比較し3億526万円減少している。これにより、当年度純利益は、15億972万円と前年度に比較し10億227万円増加している。

経営状況については、業務活動の能率を示す営業収支比率が162.6%で、下水道使用料が増加したことにより前年度に比較し3.7ポイント上昇している。また、短期的な資金繰りの状況を示す流動比率が171.2%で、建設改良費等の未払金が減少したことにより前年度に比較し17.5ポイント上昇しており、前年度より良好となっている。

なお、企業債の当年度末残高は2,713億2,460万円で、資本費平準化債が増加したものの建設企業債が減少したことにより前年度に比較し44億6,684万円減少している。

当年度の状況は以上のとおりであるが、下水道事業においては、収入の根幹をなす下水道使用料の収納率を向上させるため、口座振替の利用促進や口座再振替の実施、滞納整理の強化などに努めたことにより、収納率が前年度を上回り増収となった。また、管理コストの縮減については、前年度に引き続き職員の削減による人件費の抑制や浄化センターにおける包括的民間委託の実施などに積極的に取り組んだところである。これにより、前年度を上回る純利益が生じているが、次年度以降の企業債の償還財源に充てるため減債積立金に積み立てることとしている。

しかし、今後は、汚水管渠整備が完了に近づいていることから下水道使用料の大幅な伸びが見込まれない状況であり、一方で、管渠や処理施設等の老朽化に伴う改築・更新に多額の資金が必要となるとともに企業債償還額の増加が見込まれ、経営環境は厳しい状況になるものと予測される。

このため、平成22年3月に策定した「千葉市下水道事業中長期経営計画」に基づき建設投資の適正化や経営の合理化・効率化、資金収支に基づく事業運営に取り組んでいるところであるが、さらに安定した経営基盤を築く必要があることから、下水道使用料については、納付者の利便性にも配慮しつつ収納率の向上に努められたい。また、徴収事務については、平成24年度の実施に向けて市水道局との一元化に取り組んでいるが、今後は県水道局との一元化を進めるなど一層の効率化に努められたい。なお、井戸水を使用している一部の事業者が不正配管を行っていたことから、過年度分の下水道使用料等を徴収したところであるが、今後も井戸水使用者の下水道使用状況等を十分に調査し、実態の把握に努められたい。

さらに、施設整備にあたっては、事業の厳選と重点化を図り、計画的に実施するとともに、企業債の未償還残高が依然として高い水準にあることから発行抑制にも留意されたい。また、施設の維持管理については、包括的民間委託などを効果的に活用し、より一層のコストの縮減に努められたい。なお、中長期経営計画の進行管理については、的確な評価・検証を行い計画の見直しをするなど経営の健全化が図られるよう十分に留意されたい。

今後の事業運営にあたっては、下水道が安全で快適な生活環境の実現と河川等の水質保全を図るために欠くことのできない重要な施設であることから、環境保全に配慮しつつ、将来を見据えた経営基盤の強化に留意し、より効率的な事業運営に取り組まれることを要望する。

水道事業会計

1 業務実績

給水量は、479 万 7,107 m³（1 日平均 1 万 3,143 m³）で、前年度に比較し 12 万 1,360 m³（2.6%）増加しており、給水量の内訳は、千葉県からの受水量 441 万 3,247 m³（対前年度比 0.5%増）、地下水量 38 万 3,860 m³（対前年度比 35.7%増）である。

有収水量は、465 万 1,329 m³で、前年度に比較し 12 万 364 m³（2.7%）増加しており、有収率は、97.0%で、前年度に比較し 0.1 ポイント上昇している。

給水普及率は、給水区域内人口 5 万 7,276 人に対し給水人口 4 万 6,568 人で 81.3%となり、前年度に比較し 0.5 ポイント上昇している。また、給水戸数は、1 万 7,928 戸で、前年度に比較し 449 戸（2.6%）増加している。

表 1 業務実績

区 分	平成 22 年度	平成 21 年度	対前年度増減	対前年度比率 (%)
給 水 量 (m ³)	4,797,107	4,675,747	121,360	102.6
受 水 量 (m ³)	4,413,247	4,392,821	20,426	100.5
地 下 水 量 (m ³)	383,860	282,926	100,934	135.7
1 日平均給水量 (m ³)	13,143	12,810	333	102.6
有 収 率 (%)	97.0	96.9	0.1	—
有 収 水 量 (m ³)	4,651,329	4,530,965	120,364	102.7
給 水 普 及 率 (%)	81.3	80.8	0.5	—
給水区域内人口 (人)	57,276	57,071	205	100.4
給 水 人 口 (人)	46,568	46,095	473	101.0
給 水 戸 数 (戸)	17,928	17,479	449	102.6

(注) 1 有収水量とは、給水量のうち料金対象となるものである。

2 給水区域内人口、給水人口及び給水戸数は、各年度末の数値である。

3 有収率：有収水量／給水量×100

給水普及率：給水人口／給水区域内人口×100

図1 給水量等の推移

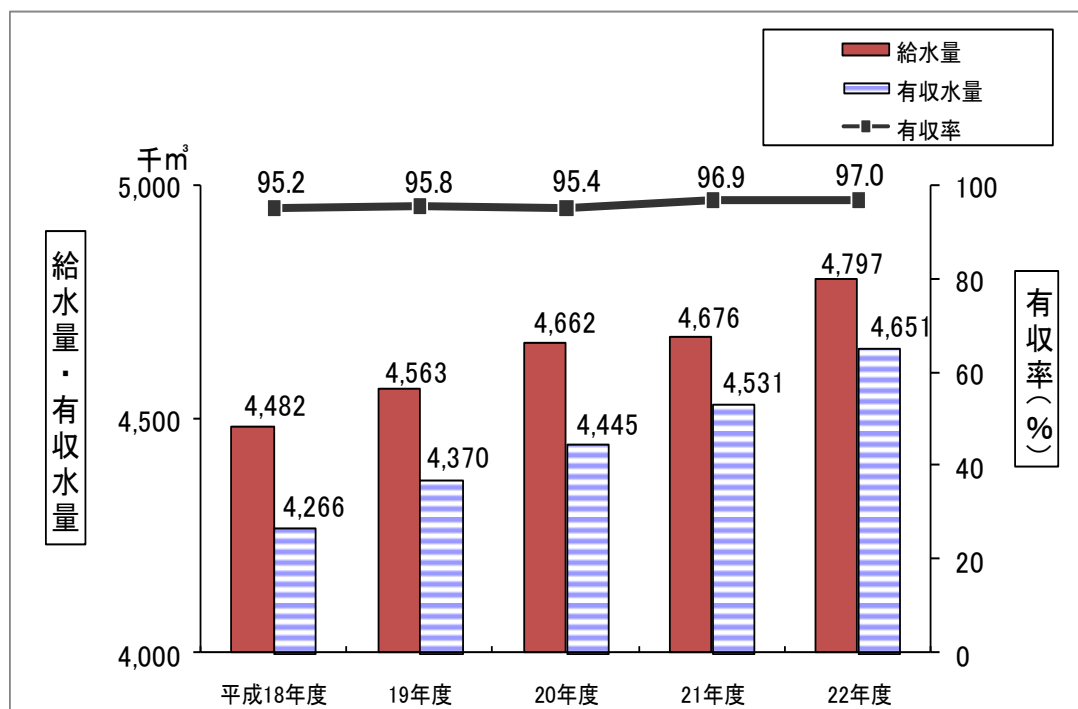
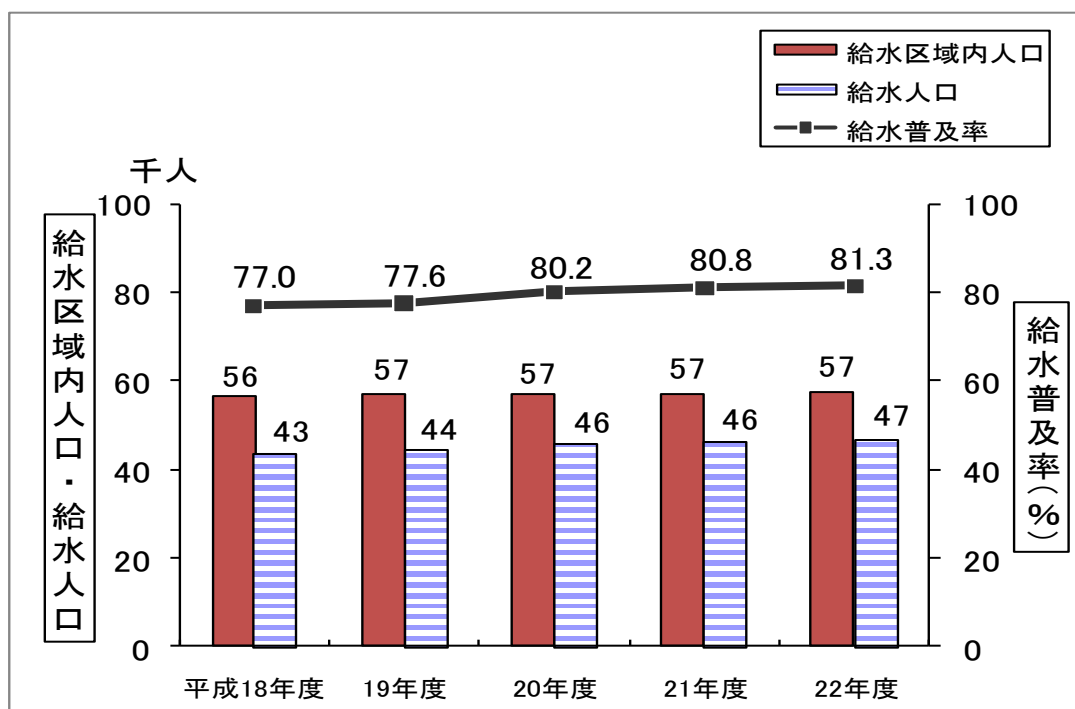


図2 給水普及率等の推移



2 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出

ア 収益的収入

水道事業収益は、予算額 20 億 5,711 万円に対し決算額は 19 億 9,370 万円(収入割合 96.9%)で、予算額に比べ 6,340 万円の減額である。

予算額に比べ減額となった主なものは、営業外収益の一般会計補助金8,265万円である。

表2 予算執行状況(収益的収入)

(単位：千円、%)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収入割合
水 道 事 業 収 益	2,057,110	1,993,705	△63,405	96.9
営 業 収 益	1,060,729	1,087,667	26,938	102.5
営 業 外 収 益	996,380	906,035	△90,345	90.9
特 別 利 益	1	3	2	254.6

イ 収益的支出

水道事業費は、予算額20億411万円に対し決算額は19億4,733万円(執行率97.2%)で、不用額は5,677万円である。

不用額の主なものは、営業費用では浄水場の定期点検委託の業務内容を変更したことなどによる配水及び給水費2,438万円、千葉県水道局からの受水量が予定量より減となったことなどによる原水及び浄水費1,753万円であり、営業外費用では企業債の借入利率が低下したことなどによる支払利息及び企業債取扱諸費309万円である。

表3 予算執行状況(収益的支出)

(単位：千円、%)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執 行 率
水 道 事 業 費	2,004,110	1,947,333	56,777	97.2
営 業 費 用	1,705,895	1,653,592	52,303	96.9
営 業 外 費 用	296,714	293,530	3,184	98.9
特 別 損 失	501	211	290	42.2
予 備 費	1,000		1,000	

(2) 資本的収入及び支出

ア 資本的収入

資本的収入は、予算額 16 億 1,457 万円に対し決算額は 14 億 6,744 万円(収入割合 90.9%)で、予算額に比べ 1 億 2,612 万円の減額である。

予算額に比べ減額となった主なものは、建設改良費が減となったことによる企業債1億500万円である。

表4 予算執行状況（資本的収入）

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額	決 算 額	翌年度 繰越額	予算額に比べ 決算額の増減	収入割合
資 本 的 収 入	1,614,571	1,467,443	21,000	△126,128	90.9
企 業 債	1,263,000	1,137,000	21,000	△105,000	90.0
出 資 金	124,447	124,447	0	0	100.0
負 担 金	227,124	205,996	0	△21,128	90.7

イ 資本的支出

資本的支出は、予算額22億8,105万円に対し決算額は21億551万円（執行率92.3％）で、不用額は1億4,713万円である。

不用額の主なものは、鉛給水管改修工事の改修件数の減などによる建設改良費の改良費1億191万円である。

翌年度繰越額は、鉛給水管改修工事等の建設改良費2,841万円である。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額6億3,806万円は、過年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額3,325万円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額1,795万円及び過年度分損益勘定留保資金5億8,685万円で補てんしている。

表5 予算執行状況（資本的支出）

（単位：千円、％）

区 分	予 算 額	決 算 額	翌年度 繰越額	不 用 額	執行率
資 本 的 支 出	2,281,055	2,105,512	28,413	147,130	92.3
建設改良費	1,801,796	1,626,556	28,413	146,827	90.3
償 還 金	473,759	473,759	0	0	100.0
繰延勘定費	5,500	5,198	0	303	94.5

表6 建設改良費の概要

（単位：千円）

区 分	内 容	金 額
建 設 工 事	配水管布設工事（22-1工区）若葉区中田町地内外	81,900
水 源 費	霞ヶ浦開発建設事業負担金	562,969
	房総導水路建設事業負担金	566,806
改 良 工 事	鉛給水管改修工事（その1～その5）緑区大高町地内外	36,522

3 経営成績

(1) 事業収益

水道事業収益は、決算額19億1,386万円で、前年度に比較し3,700万円(1.9%)減少している。

ア 営業収益

営業収益は、決算額10億3,601万円で、前年度に比較し1,734万円(1.6%)減少しているが、これは主に加入者負担金の減により、その他の営業収益が減少したことによるものである。

営業収益の内訳は、給水収益9億3,449万円(対前年度比2,638万円〔2.9%〕増)及びその他の営業収益1億151万円(対前年度比4,372万円〔30.1%〕減)である。

イ 営業外収益

営業外収益は、決算額8億7,785万円で、前年度に比較し1,938万円(2.2%)減少しているが、これは主に一般会計補助金が減少したことによるものである。

営業外収益の内訳は、一般会計補助金8億7,359万円(対前年度比1,735万円〔1.9%〕減)である。

ウ 特別利益

特別利益は、決算額2千円である。

(2) 事業費

水道事業費は、決算額19億1,386万円で、前年度に比較し3,700万円(1.9%)減少している。

ア 営業費用

営業費用は、決算額16億556万円で、前年度に比較し2,394万円(1.5%)減少しているが、これは主に送配水及び給水設備に係る資産減耗費が減少したことなどによるものである。

営業費用の内訳は、原水及び浄水費7億6,264万円(対前年度比284万円〔0.4%〕減)及び減価償却費5億4,058万円(対前年度比756万円〔1.4%〕増)である。

イ 営業外費用

営業外費用は、決算額3億810万円で、前年度に比較し1,283万円(4.0%)減少しているが、これは主に支払利息及び企業債取扱諸費が減少したことによるものである。

営業外費用の内訳は、支払利息及び企業債取扱諸費2億8,793万円(対前年度比828万円〔2.8%〕減)である。

ウ 特別損失

特別損失は、決算額20万円である。

表7 損益の状況

(単位：千円、%)

区 分	平成 22 年度	平成 21 年度	対前年度増減	対前年度比率
水道事業収益	1,913,868	1,950,869	△37,001	98.1
営業収益	1,036,011	1,053,352	△17,341	98.4
営業外収益	877,855	897,243	△19,387	97.8
特別利益	2	275	△272	0.9
水道事業費	1,913,868	1,950,869	△37,001	98.1
営業費用	1,605,561	1,629,506	△23,945	98.5
営業外費用	308,106	320,944	△12,838	96.0
特別損失	201	419	△218	48.0

4 財政状態

(1) 資産

資産合計は、466億2,934万円で、前年度に比較し2,913万円（0.1%）減少している。

固定資産は、424億931万円で、前年度に比較し5,538万円（0.1%）減少しているが、これは主に電気設備等の機械及び装置が減価償却により減少したことによるものである。

流動資産は、42億518万円で、前年度に比較し2,689万円（0.6%）増加しているが、これは主に現金預金が増加したことによるものである。

繰延勘定は、1,484万円で、前年度に比較し64万円（4.1%）減少しているが、これは管路管理システムの開発費が減少したことによるものである。

(2) 負債

負債合計は、87億6,535万円で、前年度に比較し10億1,344万円（10.4%）減少している。

固定負債は、58億8,607万円で、前年度に比較し10億8,510万円（15.6%）減少しているが、これは房総導水路等の施設利用権に係る債務負担行為の償還に伴いその他固定負債が減少したことによるものである。

流動負債は、28億7,928万円で、前年度に比較し7,165万円（2.6%）増加しているが、これは主に千葉県土地開発公社からの緑の森工業団地に係る開発負担金の受け入れにより前受金が増加したことによるものである。

(3) 資本

資本合計は、378億6,398万円で、前年度に比較し9億8,431万円（2.7%）増加している。

資本金は、229億4,817万円で、前年度に比較し7億8,768万円（3.6%）増加しているが、これは主に房総導水路等の施設利用権に係る債務負担行為の償還に伴い自己資本金及び借入資本金が増加したことによるものである。

剰余金は、149億1,580万円で、前年度に比較し1億9,662万円（1.3%）増加しているが、これは主に開発行為に伴う工事負担金が増加したことによるものである。

表8 貸借対照表

(単位：千円、%)

区 分	平成22年度	平成21年度	対前年度増減	対前年度比率
資 産	46,629,342	46,658,478	△29,136	99.9
固定資産	42,409,316	42,464,704	△55,388	99.9
流動資産	4,205,185	4,178,294	26,892	100.6
繰延勘定	14,840	15,480	△640	95.9
負 債	8,765,359	9,778,806	△1,013,447	89.6
固定負債	5,886,076	6,971,182	△1,085,106	84.4
流動負債	2,879,283	2,807,624	71,659	102.6
資 本	37,863,982	36,879,671	984,311	102.7
資本金	22,948,178	22,160,490	787,688	103.6
剰余金	14,915,804	14,719,182	196,623	101.3

(4) 企業債の推移

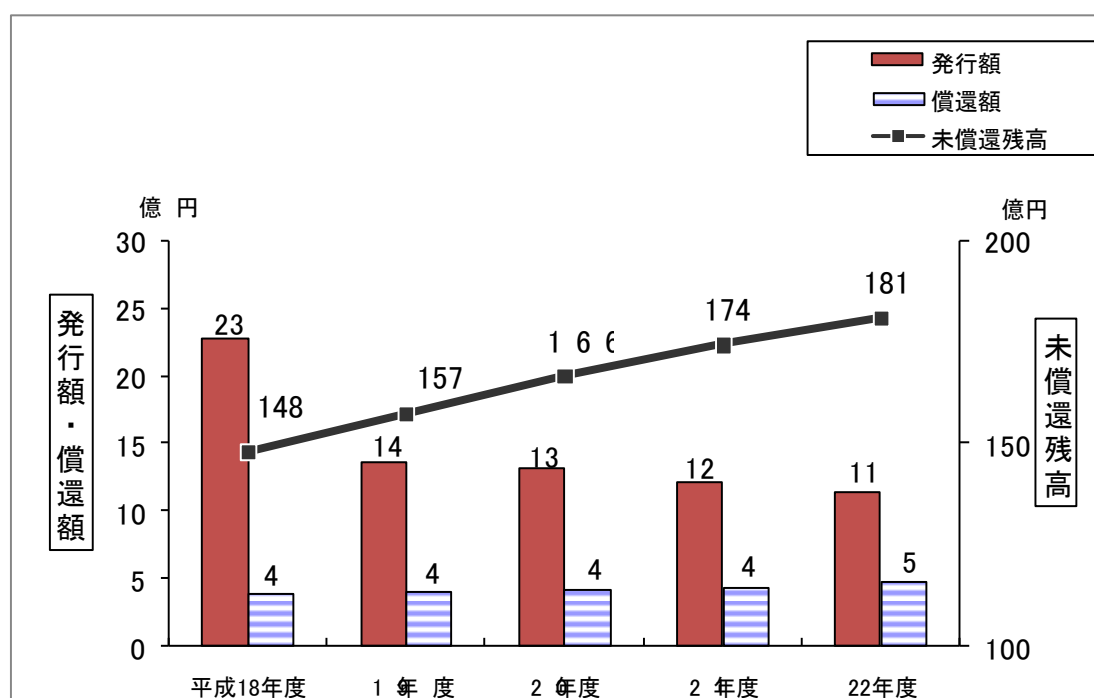
企業債の推移は、表9及び図3のとおりである。

表9 企業債の推移

(単位：百万円)

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
発行額	2,278	1,354	1,318	1,205	1,137
償還額	393	397	419	432	474
残 高	14,790	15,747	16,646	17,419	18,083

図3 企業債の推移



5 経営指標

営業収支比率は、64.5%で、前年度に比較し0.1ポイント低下しているが、これは主に加入者負担金の減により営業収益が減少したことによるものである。

流動比率は、146.0%で、前年度に比較し2.8ポイント低下しているが、これは主に開発負担金の受け入れによる前受金の増により流動負債が増加したことによるものである。

一般会計繰入金対総収益比率は、45.6%で、前年度に比較し0.1ポイント低下しているが、これは主に一般会計補助金が減少したことによるものである。

原価回収率は、48.8%で、前年度に比較し2.2ポイント上昇しているが、これは主に資産減耗費の減により給水原価が低下したことによるものである。

表 10 経営指標

(単位：%)

区 分	平成 22 年度	平成 21 年度	対前年度増減
営 業 収 支 比 率	64.5	64.6	△0.1
流 動 比 率	146.0	148.8	△2.8
一般会計繰入金対総収益比率	45.6	45.7	△0.1
原 価 回 収 率	48.8	46.6	2.2

(注) 1 営業収支比率：営業収益／営業費用×100

2 流動比率：流動資産／流動負債×100

3 一般会計繰入金対総収益比率：一般会計繰入金／総収益×100

4 原価回収率：供給単価／給水原価

図 4 一般会計繰入金の推移

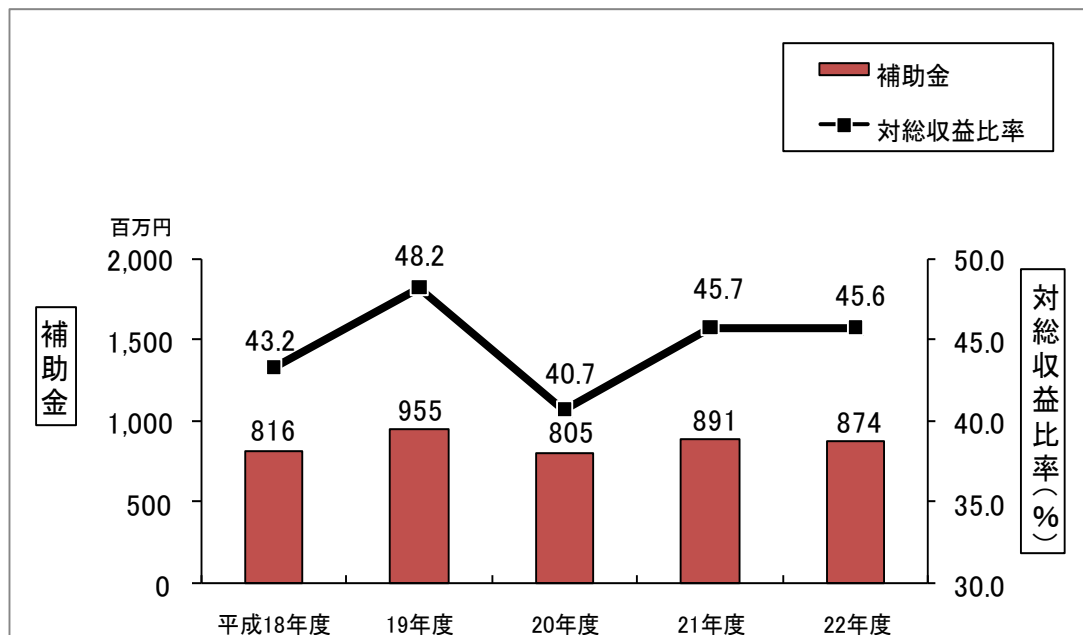
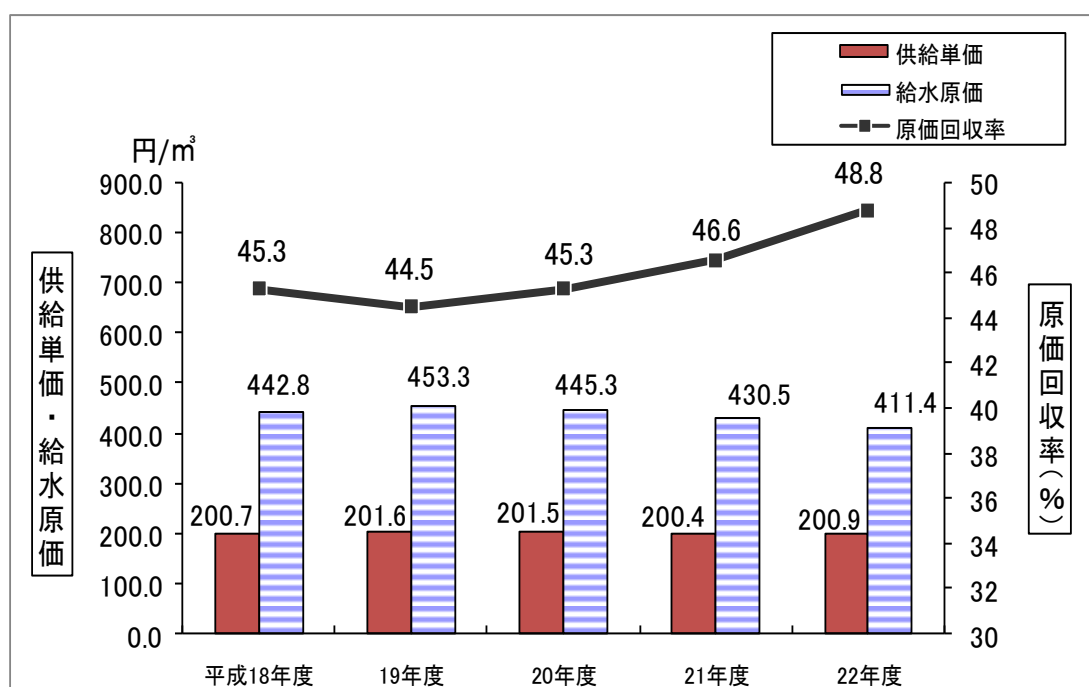


図5 原価回収率等の推移



- (注) 1 供給単価：給水収益／有収水量
 2 給水原価：(経常費用－受託工事費)／有収水量

以上が水道事業会計の決算状況である。

6 むすび

業務の状況については、給水量479万7,107 m^3 に対し、有収水量が465万1,329 m^3 で、有収率は、97.0%となり、前年度に比較し0.1ポイント上昇している。また、給水普及率は、給水区域内人口5万7,276人に対し、給水人口が4万6,568人で81.3%となり、前年度に比較し0.5ポイント上昇している。

損益の状況については、事業収益が19億1,386万円で、加入者負担金の減などにより前年度に比較し3,700万円減少しているが、損益は、一般会計からの繰り入れにより同額となり、純損失は生じていない。

経営状況については、業務活動の能率を示す営業収支比率が64.5%で、給水収益は増加したものの加入者負担金が減となったことにより前年度に比較し0.1ポイント低下している。また、短期的な資金繰りの状況を示す流動比率が146.0%で、流動負債が増加したことにより前年度に比較し2.8ポイント低下しているが、前年度と同水準となっている。

なお、借入資本金の当年度末残高は180億8,251万円で、房総導水路等の施設利用権に係る債務負担行為の償還に伴う企業債等の発行により前年度に比較し6億6,324万円増加している。

当年度の状況は以上のとおりであるが、水道事業では、若葉区泉地区の未普及地区の解消に係る第3次拡張事業や更新時期を迎えた施設等の改良事業を推進しているが、第3次拡張事業では配水管網整備や房総導水路等の施設利用権に係る債務負担行為の償還、また、改良事業では電気計装等の浄水場設備や基幹管路の改修などで、多額の資金が必要になるなど、経営環境は引き続き厳しい状況が続くものと予測される。

このため、施設の運転管理や配水管等の維持管理においては、これまでも計画的に業務委託の拡大に努めてきたところであり、また、水道使用料については経費の節減等を図るため、平成24年度の実施に向けて下水道使用料との徴収事務の一元化に取り組むなど、経営の効率化を行っているところである。

しかし、経営基盤をさらに強化する必要があることから、水道使用料の高い収納率を維持することや管理コストのさらなる縮減に努められたい。また、配水管網整備については、住民の給水要望を的確に捉えるとともに、費用対効果を十分踏まえ計画的かつ効率的に進められたい。

さらに、第3次拡張事業の今後のあり方、また、施設等の改良事業や企業債償還等の費用の増加などの課題があることから、将来を見据えた中長期的な経営計画を策定し、経営の健全化に取り組まれたい。なお、策定にあたっては、的確な水需要予測と事業の精査を行うとともに、財源確保に留意されたい。

今後の事業運営にあたっては、水道が健康で文化的な市民生活の維持・向上に欠くことのできないライフラインの一つであるため、将来にわたり良質な水の供給や災害対策の強化にも配慮しつつ、長期的な経営の安定が確保されることを要望する。